令和２年１２月８日

保護者の皆様

昭島市立富士見丘小学校
校長　稲垣　達也

相 手 を 思 う 心

昨日、昭和館宿泊学習の集大成として、「昭島のよさ再発見シンポジウム」を開催しました。実際に体験してきたことを通して、昭島のよさを伝えるとともに、一泊二日の貴重な学びを振り返りながら、６年生が５年生へ熱いメッセージを送りました。会場全体が、昭島の魅力と宿泊学習の意義を再発見した１時間でした。

シンポジウムの冒頭に私がお話をした内容の一部を紹介いたします。

> 9 月 30 日、昭島市が昭和館への宿泊企画を決定したという知らせが届きました。思いがけない嬉しさとともに、複雑な気持ちでもありました。それは‥
>
> 一つは、コロナ禍において、集団での宿泊が正しい選択かどうか。この感染症にとって一人一人の行動が世界に思わぬ影響を与えるからです。
>
> 二つめは、宿泊費を公費で支出するということ。税金の意味を考え、この宿泊学習を、真に価値のある、深い学びの機会としなければなりません。
>
> 三つめは、今の５年生はどうなるのか。これからは「今までは‥」ではなく、目の前の課題に向き合い、解決していくことが求められます。
>
> その中で出した結論が「今、どうするか！」です。コロナ禍の中、貴重な税金を費やして実施するのですから、単なるお泊り会とか、お楽しみ、思い出作りではありません。６年生へ課したことは、次の３つです。
>
> 「課題意識をもって、主体的に意思決定すること」「協働して、実践的な集団活動を行うこと」「宿泊学習の成果を、将来の生き方につなげること」
>
> これら正解の無い問題に対して、みんなが納得できるような答えを生み出す宿泊学習にすることによって達成してほしいと願いました。
>
> こうした中、真剣に、真摯に取り組んだ６年生は、多くのことを学びました。一番の成果は「相手意識」を学んだことです。「自分にとってどうか」と同時に「相手にとってどうか」です。例えば、自分が楽しむためには、相手が楽しくなければ実現しないということ。このことは、マナーやルール、相手の話をよく聞くこと、挨拶や返事、言葉遣いなど、すべてに通じることです。

まったく新しい未知の課題に取り組み、大きな成果をあげた６年生に拍手を送りたいと思います。ねらいを「昭島のよさ再発見」とし、電車等も利用せず徒歩で市内を走破しようと、自分たちで結論を出しました。コロナ禍、暗中模索で取り組んだ企画を温かくご支援くださった保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

そして、６年生の６グループの発表と質疑応答、学校評議員や保護者のお話など、内容の濃いシンポジウムに、真剣に耳を傾ける５年生の姿に「次は自分たちが最高学年だ！」という意識が芽生えてきたように感じました。

これから、大きな不安の中、年末年始を迎えることになりますが、６年生が学んだように「自分がどう考えるか」と同時に、「相手がどうしてほしいのか」と、相手を思いやる心の余裕を大切にしたいと思います。

医療崩壊が近づき、医療従事者は心身ともに限界を超え、退職を余儀なくされているとも聞きます。一方で、「不安だけど自分は大丈夫」と根拠のない自信の元、自らの快楽のため行動を抑制しない大人も数多くいます。少なくとも、誰もがウイルスに怯えるコロナ過で「Go To～」等、あえて眉をひそめられる行動は避けたいものです。それが社会の一員としての最低限の大人の責任ではないでしょうか。「未来の守護者」である子供たちを、身勝手な大人の巻き添えにしてはいけません。